

2021年度 FD・SD 活動報告書

1. FD・SD とは

FD（ファカルティ・ディベロプメント）とは、大学設置基準第 25 条の 3、大学院設置基準第 14 条の 3 に規定の内容を踏まえ、授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取り組みをいう。具体的には、次のとおり。

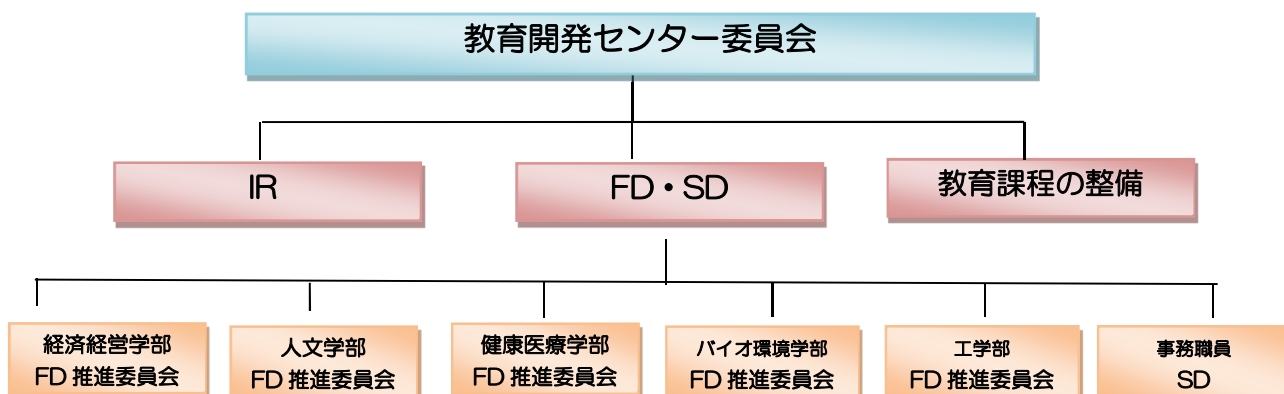
- ①教育の質的向上に関する情報の収集
- ②教育の質にかかる現状評価と諸施策の検証
- ③教育の質的向上に向けた諸施策の企画と実施
- ④FD の啓発活動（全学・各学部 FD 活動報告書の取りまとめ等）

SD（スタッフ・ディベロプメント）とは、大学設置基準第 42 条の 3、大学院設置基準第 43 条に規定の内容を踏まえ、職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための（FD に相当するものを除く）取り組みをいう。なお「職員」には、事務職員のほか、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれる。具体的には、次のとおり。

- ①大学職員に必要な知識および技能向上に関する情報の収集
- ②大学職員に必要な知識および技能向上に向けた諸施策の企画と実施
- ③SD の啓発活動（SD 活動報告書の取りまとめ等）

2. 2021 年度推進体制

1) 推進体制（2022 年 3 月現在）



2) 推進委員（2022年3月現在）

久 育男（教育開発センター長）、藤田裕之（教育開発副センター長）、清水裕子（教育開発副センター長）、右近潤一（経済経営学部）、乳原孝（人文学部）、谷口有子（健康医療学部）、船附秀行（バイオ環境学部）、川上浩司（工学部）、事務局：東義明（大学事務局次長）、猪塚和彦（大学事務局次長）村松広昭（教務部副部長）

3) 推進期間

2021年4月1日（木）～2022年3月31日（木）

3. 2021年度の活動総括

FD・SD研修会について、実施・運営を引き続き実施することができた。しかしながら、コロナ禍の影響もあり、昨年度に引き続き「授業公開」は実施できなかったが、授業評価賞受賞教員によるオンライン授業による「遠隔授業時」での工夫についてのFD研修・パネルディスカッションを実施でき、オンライン授業の問題点について総括を行うことができた。

2021年度の特記事項として以下の点が挙げられる。

- ① 年間7回のFD・SD研修会を行ったが、今期についてもほとんどの研修会はオンデマンドでの開催となった。
- ② 学修成果の可視化に向けて、学修PFシステムが新たに稼働しているが、その中に位置づけられるマイステップに関しても、教員に要請すべき事項を整理し、FD研修を実施、また学生向けにも新たにマニュアルを作成し配布した。今後、教員ばかりでなく学生に対しても、学修ポートフォリオで求められているものや、その利用方法について周知するためのガイダンス動画などを作成する必要があることがわかった。
- ③ FD・SD研修会の出席アンケートは、先端なびのアンケート機能を用いて実施した。研修会は、1回を除いては、TEAMSでオンデマンド・オンライン方式での開催としたため、飛躍的に研修会の参加率が向上した。これには、教職員の空いている時間を有効利用して受講できるというメリットが大きいものと考えられ、今後も継続してオンラインでの実施を基本とした方がいいと考えられた。
- ④ 教員の人事考課に関わるFD・SD研修会は、計3回実施した（大学の財政・ハラスメント・大学のガバナンス）。
- ⑤ 例年と同様、本学所属団体（大学コンソーシアム京都）によるFD・SD研修会等への参加を支援した。

4. FD・SD 研修会実施状況

2021年度は、下表のとおり、年7回のFD・SD研修会を実施した。

	開催日	テーマ（講師）	参加人数
第1回	5月19日（水）	「研究に関わるコンプライアンス研修会」 研究・連携支援センター長 小関 敏彦 副学長 研究・連携支援センター副長 高瀬 尚文 教授 研究・連携支援センター 中西 絵美 職員	272名 (教員229名、職員43名)
第2回	9月1日（水）	「スタートアップゼミ授業法」 村川 雅弘 氏 (甲南女子大学 人間科学部 総合子ども学科 教授) 人文学部 学部長 佐藤 嘉倫 教授 人文学部 心理学科 小山 智朗 講師 教務センター長 西片 聡哉 教授	181名 (教員166名、職員15名)
第3回	8月27日（金）	「先端なび『マイステップ』の活用と、 『学修リーダーチャート』を用いた学修指導について」 教育開発センター副センター長 藤田 裕之 教授 教務センター長 西片 聡哉 教授 教育開発センター 中山 伸朗 職員	188名 (教員167名、職員21名)
第4回	10月24日（水） 10月29日（金） 11月3日（水）	「本学の財政状況について」 法人事務局 浜田 忠章 副理事長 法人事務局 松村 明希子 企画部企画課職員	329名 (教員195名、職員134名)
第5回	1月24日（月）	「ガバナンスに魂を！」 河井 昭夫 常勤監事	287名 (教員178名、職員109名)
第6回	1月24日（月）	「ハラスメントのレベルについて」 河井 昭夫 常勤監事	289名 (教員181名、職員108名)
第7回	2月7日（月）	「コロナ禍における授業のあり方・工夫 ～授業評価賞受賞者からの事例報告～」 2020年度授業評価アンケート賞受賞教員 ・経済経営学部 安達 房子 教授 ・人文学部 神原 歩 准教授 ・健康医療学部 東原 文郎 准教授 ・バイオ環境学部 井口 博之 准教授 ・工学部 川上 浩 教授 ファシリテーター 教育開発副センター長 藤田 裕之 教授 清水 裕子 准教授	218名 (教員170名、職員48名)

5. 学外 FD・SD 研修会等への参加状況

学外における FD・SD 活動は、本学が参加する団体（大学コンソーシアム京都）において主催する研修があり、教職員が自主的に申し込み参加・報告する形式としている。

開催日	テーマ (会場)	参加人数 (所属)
7月24日(土)	大学コンソーシアム京都 第1回 教職員スキルアップ研修 アクティブラーニング演習 「英語を使って科目を教授する方法について」	1名(人文学部)
7月30日(金) 8月6日(金)	大学コンソーシアム京都 第3回 教職員スキルアップ研修 「Everyday Communication」	1名(財務課)
8月7日(土)	大学コンソーシアム京都 第1回 京都 FD 交流会 「ポストコロナに向けた授業のありかた」ハイブリッド授業?	1名(経済経営学部)
8月28日(土)	大学コンソーシアム京都 2021年度 IR フォーラム	4名(健康医療学部、教育開発センター)
9月8日(水)	大学コンソーシアム京都 2021年度 SD 共同研修プログラム 「教務がわかると大学事務が見えてくる! 教務と関係法令」	2名(教務課、教育開発センター)
10月30日(土)	大学コンソーシアム京都 2021年度 第19回 SD フォーラム	2名(大学事務局)
11月19日(金)	大学コンソーシアム京都 2021年度 SD 共同研修プログラム 「これからの大学職員” IRer” (基礎)」	1名(教育開発センター)
2月19日(土) 2月20日(日) 2月26日(土) 2月27日(日)	大学コンソーシアム京都 2021年度 第27回 FD フォーラム	7名(経済経営学部、健康医療学部、バイオ環境学部、教育開発センター)

6. 学外委員について

大学コンソーシアム京都FD企画検討委員会 2021年度 健康医療学部 谷口 有子 委員
 関西地区FD連絡協議会 2021年度 バイオ環境学部 船附 秀行委員
 ※関西地区FD連絡協議会は2021年度に発展的解消のため開催なし。

7. 2022 年度 FD・SD 活動に向けた課題

2021 年度から、教育開発センターは、これまでの FD・SD 推進委員会と IR 推進委員会の役割を引き継ぎ、FD 活動・SD 活動のみならず、教育開発に関する取り組みを迅速にチェック・審議する取り組みが整った。現行制度にて検討が必要な事項は速やかに対応できるよう体制を整えた。

一方、教職員の教育力向上の支援、及び推進に向けて以下の FD 研修（大学全体レベル・学位プログラムレベル・授業科目レベル）に落とし込み順次開催していく。

- ① 各種アセスメント結果・現状の学生の分析結果を用いて研修会を開催しての意見交換や、次期カリキュラム改革に向けての知見を深める情報、および機会の提供。
- ② 成績評価基準の適切な運用支援と（ルーブリックの活用、GPA 算出と活用等）、これらの評価基準を通しての、個々の授業科目の見直しにつながる情報の提供。
- ③ 学修成果の可視化のため（学生個人の学修成果の評価方法）、2021 年度に学修ポートフォリオを導入できたが、これらのマイステップ機能との連動について、特に学生の 4 年間の成長と学びを意識した FD 研修会を実施し周知徹底をはかる。また、学生指導・支援を行うための教職員の知識・技能の向上をはかるための機会提供についても実施する。

以上